



石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターが実施している森林教室における新たな視点での取組について紹介いたします。

この取組は、平成28年から始まり今年で3年目となります。平成33年から全面実施される次期学習指導要領の柱の一つである、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の導入に先立ち、定山溪中学校の森林環境教育において、森林の中で課題を見出し、自らがそれを解決するために必要な「能力・姿勢」を身につけることを目的に、実践しております。

定山溪中学校は、札幌市の中心部から中山峠に向かって、約30kmのところであり、水源地域にある自然環境に恵まれた学校です。これまで当センターは、様々な森林教室を中学校で実施してきましたが、その内容は、どちらかと言えば教える側が主体である受動的な学びでした。この取組に当たっては、生徒の主体性を尊重し、発

見や気づきを重視して自由な発想を妨げない、との基本方針を定め、センター職員自身もこれまでの森林づくりの基準にこだわらず、生徒へのアドバイスは必要最小限、実施プログラムは作成しない等、これまでとは異なる対応で臨んでいます。



咲いている花の数を調べよう

活動地は、中学校から約1kmのところにある国有林内にあり、この活動地を生徒たちは「ゆめの森」と名付けています。

生徒たちは、どのような森林を目指したいかを考え、自らの森林のイメージを絵にしました。

それぞれのイメージを実現するために何をすれば良いかを話し合った結

果、平成28年には、まずは歩道が必要と気づき、歩道の作設・測量・図化を行いました。平成29年には、この森の看板を設置し、「鳥たちと楽しく遊べる森」をイメージして巣箱やバードテーブルを設置したり、「キノコの分解者ゾーン」を設けたり、昆虫の調査を実施して森林環境のモニタリングもおこないました。これらの活動により、生徒は、自らが体験で学び、自らが判断し、仲間と協働で活動することができました。



定山溪中学校の「ゆめの森」看板

また、森林整備活動を行っているNPO団体等との意見交換・交流を行うことにより、お互いの活動の活性化を推進するために「森づくり活動発表会」を開催しました。発表後は、

全参加者で「もりを観察、学ぶ、育てる」をテーマにパネルディスカッションを行い、有意義な時間を過ごしました。



森林教室を終えて記念撮影

更に、森林学習で学んだ成果については、積極的に発信・発表を行ってきており、継続的に取り組んでいる環境教育活動は、地域住民の環境の保全に向けた意識の高揚、地域の森林づくり活動を担う人材育成に大きく貢献していると、「平成30年度緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。当センターもしっかりとサポートしていくこととさせていただきます。